

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2028年6月15日まで（2018年11月9日設定）
運用方針	主としてわが国の株式に投資を行います。 株式への投資にあたっては、主として日経平均株価採用銘柄の中から予想配当利回りの上位30銘柄を選定し、流動性を勘案して銘柄毎の組入比率を決定します。 株式の組入比率は高位を維持することを基本とします。 株式以外の資産への投資割合は、原則として信託財産の総額の50%以下とします。
主要運用対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 分配金額の決定にあたっては、配当収入（経費控除後）の水準を勘案します。

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

日経平均高配当利回り株ファンド



第3期（決算日：2020年6月15日）



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、お手持ちの「日経平均高配当利回り株ファンド」は、去る6月15日に第3期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
（受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	基準価額			株組 入比	式率	株先 物比	式率	純資 産額
		税分	込配	み金 期騰 落					
(設定日)	円		円		%	%	%	百万円	
2018年11月9日	10,000		—	—	—	—	—	200	
1期(2019年6月17日)	9,048		160	△ 7.9	98.7	—	—	398	
2期(2019年12月16日)	9,893		180	11.3	95.9	—	—	606	
3期(2020年6月15日)	7,761		190	△19.6	97.2	—	—	699	

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基準	基準価額		株組 入比	式率	株先 物比	式率
		騰	落率				
(期首)	円		%		%		%
2019年12月16日	9,893		—	95.9	—	—	—
12月末	9,740		△ 1.5	97.0	—	—	—
2020年1月末	9,399		△ 5.0	97.1	—	—	—
2月末	8,606		△13.0	96.9	—	—	—
3月末	7,522		△24.0	95.0	—	—	—
4月末	7,769		△21.5	96.4	—	—	—
5月末	8,133		△17.8	95.7	—	—	—
(期末)							
2020年6月15日	7,951		△19.6	97.2	—	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

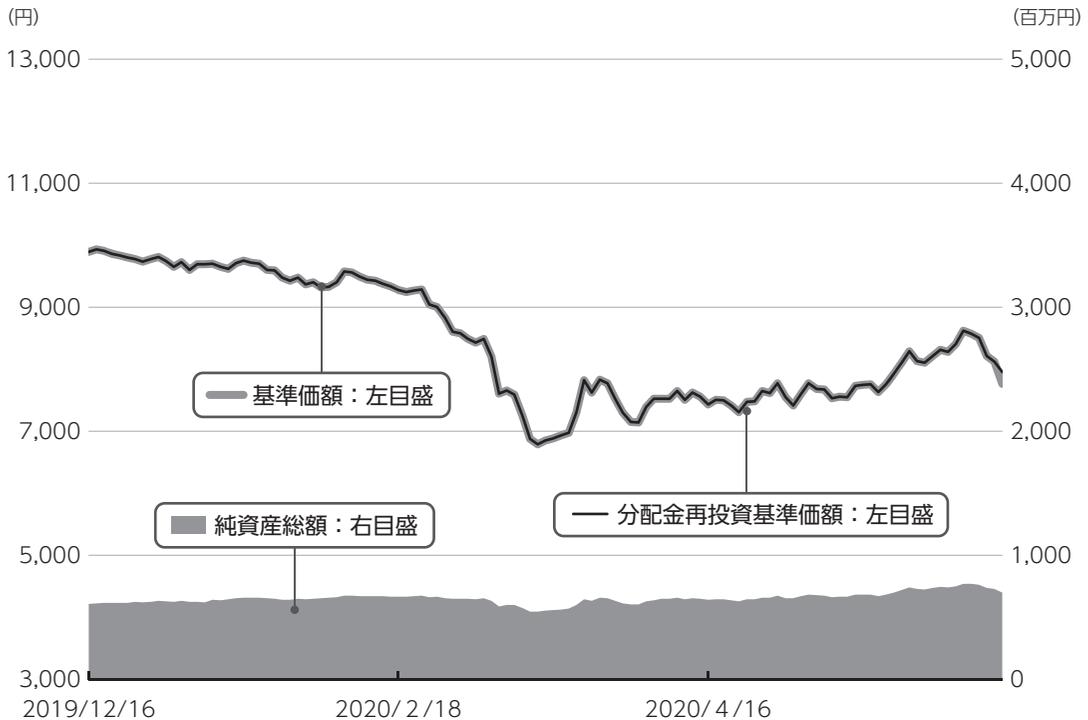
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

運用経過

第3期：2019年12月17日～2020年6月15日

当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第3期首	9,893円
第3期末	7,761円
既払分配金	190円
騰落率	-19.6%
	(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ19.6%（分配金再投資ベース）の下落となりました。

> 基準価額の主な変動要因**下落要因**

日経平均株価が下落するなか、保有する情報・通信業に属する銘柄の株価上昇がプラスに寄与したものの、銀行業、卸売業、電気機器などに属する銘柄の株価下落がマイナスに作用したことが、基準価額の下落要因となりました。

第3期：2019年12月17日～2020年6月15日

投資環境について

国内株式市況

当期の国内株式市場は、新型コロナウイルス感染症（以下、新型肺炎）の感染拡大による経済活動の停滞懸念から大幅に下落したものの、経済活動が徐々に再開され回復傾向となりました。

期首から2020年1月中旬にかけては、米国とイランの対立が激化し株式市場が大きく下落する局面もありましたが、高値を更新する米国株式市場の動向などが好感され、国内株式市場は一進一退の展開となりました。1月下旬以降、新型肺炎の感染拡大に対する懸念が強まったこと

から国内株式市場は下落に転じ、その後世界的な新型肺炎の感染拡大による実体経済への悪影響が懸念され下落幅は拡大しました。加えて、原油価格の大幅下落に伴う原油関連企業の採算悪化懸念も、株式市場の押し下げ要因となりました。

3月下旬以降、矢継ぎ早に出された各国の金融・経済対策のほか、欧米での新型肺炎新規患者数増加幅の低下や治療薬への期待、経済活動の再開機運の高まりなどが好感され、国内株式市場は回復傾向となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて

当期も引き続き、所定の運用プロセスに基づき日経平均採用銘柄の中から配当利回りの高い30銘柄を抽出し、個別銘柄ごとの流動性を勘案したポートフォリオを構築して運用しました。

前記の結果、2019年12月にリバランス（組入銘柄の入替えと組入比率の調整）を実施しました。

具体的には、三菱商事、昭和電工、JXTGホールディングスなどを新規に買い付け、日本たばこ産業、キヤノン、住友商事などを買い増した一方、NTTドコモ、日産自動車、

日本製鉄などを全株売却し、りそなホールディングス、SUBARU、武田薬品工業などを一部売却しました。銘柄入替前後での業種比較は、卸売業、ガラス・土石製品、石油・石炭製品などの構成比率を引き上げ、輸送用機器、情報・通信業、鉄鋼などの構成比率を引き下げました。なお、当該リバランス時は投資判断により除外した銘柄はありません。

2020年3月には、減配が公表された東邦亜鉛を全株売却し、期末にかけて当該ポートフォリオを維持しました。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第3期
	2019年12月17日～2020年6月15日
当期分配金（対基準価額比率）	190 (2.390%)
当期の収益	144
当期の収益以外	45
翌期繰越分配対象額	638

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 （作成対象期間末での見解です。）

主として日経平均採用銘柄の中から予想配当利回りの高い30銘柄を選定し、流動性を勘案して銘柄毎の組入比率を決定します。保有銘

柄の信用リスクや配当水準の動向に留意し、引き続き所定の運用プロセスに基づき運用していく方針です。

2019年12月17日～2020年6月15日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	29	0.340	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(14)	(0.162)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(14)	(0.162)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.016)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.000	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(0)	(0.000)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	29	0.341	

期中の平均基準価額は、8,428円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

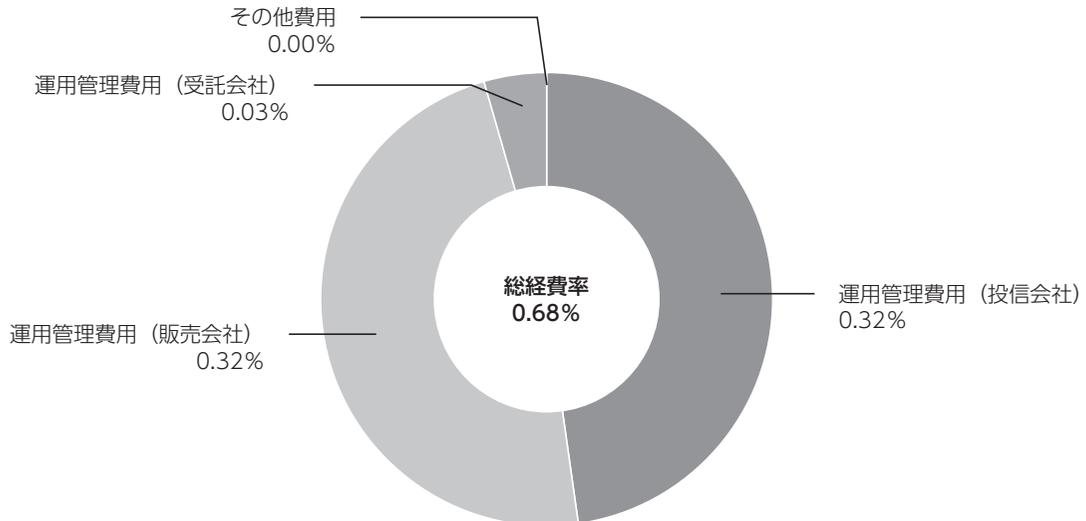
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は0.68%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2019年12月17日～2020年6月15日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 508	千円 427,866	千株 153	千円 181,713

(注) 金額は受渡代金。

○株式売買比率

(2019年12月17日～2020年6月15日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	609,580千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	635,469千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.95

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2019年12月17日～2020年6月15日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 427	百万円 58	% 13.6	百万円 181	百万円 -	% -

利害関係人の発行する有価証券等

種 類	買 付 額	売 付 額	当 期 末 保 有 額
株式	百万円 13	百万円 1	百万円 37

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三菱UFJフィナンシャル・グループ、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2020年6月15日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
建設業 (1.1%)				
長谷工コーポレーション	5.3	6.1	7,893	
積水ハウス	6.4	—	—	
食料品 (6.6%)				
日本たばこ産業	12.8	21.2	44,615	
化学 (9.1%)				
昭和電工	—	13.3	33,954	
住友化学	28.3	34.8	11,310	
三菱ケミカルホールディングス	19.7	26.8	16,967	
D I C	1.3	—	—	
医薬品 (6.8%)				
武田薬品工業	8.6	11.8	46,279	
石油・石炭製品 (7.0%)				
出光興産	4.9	6.9	16,353	
J X T Gホールディングス	—	79.1	31,117	
ガラス・土石製品 (5.2%)				
日本電気硝子	—	3	5,196	
東海カーボン	—	29.1	30,176	
鉄鋼 (—%)				
日本製鉄	9.2	—	—	
ジェイ エフ イー ホールディングス	10.1	—	—	
機械 (6.0%)				
小松製作所	13.2	19.5	40,950	
日本精工	8.9	—	—	
NTN	15.6	—	—	
電気機器 (5.9%)				
コニカミノルタ	—	15	5,940	
キヤノン	10.1	15.5	33,945	
輸送用機器 (5.1%)				
日産自動車	42.8	—	—	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
三菱自動車工業	—	20.7	6,127	
SUBARU	9.6	12.2	28,328	
ヤマハ発動機	5.8	—	—	
精密機器 (1.3%)				
ニコン	—	9.7	8,953	
シチズン時計	5.4	—	—	
情報・通信業 (—%)				
NTTドコモ	12.4	—	—	
卸売業 (17.1%)				
双日	29.9	34.2	8,139	
丸紅	20.4	25.4	12,715	
三井物産	13.9	19.8	32,373	
住友商事	10.7	16.9	20,922	
三菱商事	—	17.9	41,912	
銀行業 (20.9%)				
あおぞら銀行	2.7	3.5	6,790	
三菱UFJフィナンシャル・グループ	63.1	88.1	37,803	
りそなホールディングス	37.7	43.2	16,152	
三井住友フィナンシャルグループ	8.4	12.8	39,744	
ふくおかフィナンシャルグループ	3	—	—	
みずほフィナンシャルグループ	208.5	309.1	41,326	
証券・商品先物取引業 (4.6%)				
野村ホールディングス	—	57.2	26,506	
松井証券	3.4	5.8	4,761	
サービス業 (3.3%)				
日本郵政	—	28.6	22,193	
計	株数・金額	632	987	679,449
	銘柄数<比率>	30	29	<97.2%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 679,449	% 94.5
コール・ローン等、その他	39,168	5.5
投資信託財産総額	718,617	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	718,617,625
コール・ローン等	30,141,125
株式(評価額)	679,449,350
未収配当金	9,027,150
(B) 負債	19,573,667
未払収益分配金	17,112,934
未払解約金	210,007
未払信託報酬	2,241,520
未払利息	17
その他未払費用	9,189
(C) 純資産総額(A-B)	699,043,958
元本	900,680,764
次期繰越損益金	△201,636,806
(D) 受益権総口数	900,680,764口
1万円当たり基準価額(C/D)	7,761円

<注記事項>

- ①期首元本額 613,499,115円
 期中追加設定元本額 355,475,084円
 期中一部解約元本額 68,293,435円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.7761円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は201,636,806円です。

③分配金の計算過程

項 目	2019年12月17日～ 2020年6月15日
費用控除後の配当等収益額	13,018,246円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	—円
収益調整金額	29,627,009円
分配準備積立金額	31,939,464円
当ファンドの分配対象収益額	74,584,719円
1万円当たり収益分配対象額	828円
1万円当たり分配金額	190円
収益分配金金額	17,112,934円

○損益の状況 (2019年12月17日～2020年6月15日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	15,268,955
受取配当金	15,272,695
受取利息	67
その他収益金	135
支払利息	△ 3,942
(B) 有価証券売買損益	△143,828,861
売買益	5,685,983
売買損	△149,514,844
(C) 信託報酬等	△ 2,250,709
(D) 当期損益金(A+B+C)	△130,810,615
(E) 前期繰越損益金	31,939,464
(F) 追加信託差損益金	△ 85,652,721
(配当等相当額)	(29,627,009)
(売買損益相当額)	(△115,279,730)
(G) 計(D+E+F)	△184,523,872
(H) 収益分配金	△ 17,112,934
次期繰越損益金(G+H)	△201,636,806
追加信託差損益金	△ 85,652,721
(配当等相当額)	(29,627,009)
(売買損益相当額)	(△115,279,730)
分配準備積立金	27,844,776
繰越損益金	△143,828,861

- (注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1 万円当たり分配金（税込み）	190円
-----------------	------

◆分配金は決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、2020年6月15日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。
- ・2020年1月1日以降の分配時において、外国税控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。